

議会報告会報告書

開催日時	令和5年5月20日(土) 午後2時00分～4時00分		
開催場所	飯高地域振興局 (大会議室)		
委員会名	文教経済委員会		
出席議員	中村 誠委員長 西口真理副委員長 深田 龍 市野幸男 吉川篤博 小野建二 森 遥香		
	司会進行者	(1部)市野幸男 、 (2部)吉川篤博	
	報告者	中村 誠	
	記録者	(1部)深田 龍 、 (2部)小野建二 森 遥香	
参加人数	第1部 8名 、 第2部 8名		
第2部 形式	ワークショップ形式 (グループ 2班)		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 山本 芳敬 様

令和 5 年 5 月 29 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

文教経済委員会

委員長 中村 誠

第 1 部

【主な質疑応答・意見等】

問 自然体験に来られる方が多い。(わんわんパラダイスや、カヌーなど、4分の1くらいの方が犬連れであった。松阪わんこ旅という観光推進をしているかと思う。)

飯高道の駅に宿泊に来るニーズはあると思う。飯高道の駅で自転車が壊れて、宿泊施設があればという声はあった。つつじの里荒滝やリバーサイド茶倉もある。

全国的には 1 棟貸で借りられるゲストハウスもある。津市の美杉町だと、協議会をつくって美杉リゾートが中心になって、農家体験民宿を一緒になって行っている。そして、美杉リゾートが受付窓口を行っている。

民泊村になっている外国のリゾートもあるから、おそらくそんなイメージを目指されているのだろう。そういう機能を飯高道の駅がして、周辺観光を促していく。

ハードもいいが、ソフトにお金をかけて、担い手をつくっていくことの方が波及効果も出るかと思う。稼げる仕事につなげていかないと。そのようにしていけば、受付窓口を飯高道の駅に持たせて、そこから周辺のいろんな所に観光を促していくような機能を持たせることができる。

答 貴重なご意見である。だからこそ、行政に飯高道の駅を中心とした地域のビジョンづくりを市に求めている。市が飯高道の駅を拠点づくりする方向性は示されているからこそ、どんな拠点づくりをしていくかが重要になってくると考える。

問 地域おこし協力隊の活動として、ここから車で5分くらいのところに古民家を改修して、飲食店と農家体験宿泊施設を開いた。1月7日にオープンして、3,800人がこれまでお店に来ていただいており、3カ月だけで見ても2,000人くらい来ていただいている。

売上も結構あると思っている。どこから来ているかは、地元の地域というより外からの人が多い印象である。人が来ていること自体が大事なポイントで、人が流動して、止まってくれていることは価値が大きいと実感している。

宿泊場所の問い合わせもある。ニーズはあるということが分かってきたので、宿泊施設を新たに作っている。泊まる場所をきちんとしたものでつくれば、人は泊まってくれると思う。しかし、宿泊施設を始めるとオペレーションも大変である。掃除やふとん干しなど。作るだけではダメであるが、この辺は可能性があるのではないかと思う。

答 今日の第2部では「教えて！飯高のいいところ」というテーマで、飯高のいいものを聞くとともに、そのいいものを活用するための「課題」を聞くことを大事にした内容となっている。行政がやるのか、民間がやるのか、地元がやるのか、どこが主体でやるのがいいのか、そういうところも第2部で意見が聞ければありがたいと思っている。

第2部【テーマ：教えて！飯高のいいところ】

【主な質疑応答・意見等】

◎ メンバー(A班)

太田さん(宮前地区住民) 高杉さん(宮前地区住民)
飯高地域振興局:岡田局長 林業振興課:長谷課長

◎ 担当委員

西口(進行) 市野 小野(書記)

Q1(飯高地区の良い所)

- ・ 地元の物産が多く買える
- ・ 温泉もあり食事も出来る
- ・ ネットも繋がりやすい
- ・ 距離はあるが、移動に時間ロスがない
- ・ 渋滞が無い
- ・ 病院がすいている
- ・ 車、家電製品等の故障の対応がすごく助かる
- ・ 土地が広い
- ・ 人が親切である

Q1(飯高地区の好きな所)

- ・ 緑の多さ
- ・ 蓮ダム
- ・ 三峰山
- ・ 沈下橋
- ・ 栗ノ木岳
- ・ 川や山が良い
- ・ 遊び場の人混みがなく自由だ

Q2(飯高地区の課題)

- ・ 学校が遠い
- ・ 交通の便が悪い
- ・ 収入が高く望めない
- ・ お茶の値段が下がる上に担い手不足である
- ・ 林業の担い手不足である
- ・ 案内所の機能不足である

Q3(将来の飯高像)

- ・ 観光協会のようなコーディネーターが必要と考える
- ・ 飯高道の駅に何もかも任せっきりではダメだ

【主な質疑応答・意見等】

◎ メンバー(C 班)

田中さん(宮前地区住民) 野呂さん(宮前地区住民)

飯高地域振興局地域振興課:今井主任 西部農林水産事務所:高岡所長

◎ 担当委員

深田(進行) 吉川 森(書記)

Q.1(飯高地区の良い所・好きな所)

【好き】

- ・ 宮前は住み良い

【理由】

- ・ 宮前地区は江戸時代では宿場町であり、明治になると他所の人が移住してきたこともあり、移住者が「よそ者扱い」されない。以前、スナックを営んでいた方も、「宮前地区が一番営業をしやすい」と聞いたことがある。宮前のスナックでは「あんたどこから来たんや」という物珍らしがられる事がほとんどないと言われている
- ・ 農協、郵便局の転勤者も宮前は人が優しいと言っている

【好き】

- ・ 地域活動が盛んで、住民の意識が高い

【理由】

- ・ 神社掃除の当番がきちり決まっており、各住民は忘れずにきちり守っている
- ・ 神社を大切にしている心が育まれている
- ・ 宮前の神殿地区では地域ボランティアが軽トラや草刈機を持ち寄り、歩道の草刈りを行っている

【好き】

- ・ 町の盛り上げに協力的な住民が多い

【理由】

- ・ 珍布峠のウォーキングコース事業を始める際、「人の往来が増えるが、軒先の洗濯物などの心配がないか？」と住民に尋ねたが、「自分達で工夫をするから大丈夫」と快諾。多くの住民の理解と協力のもと盛況となっている

Q. 2(飯高地区の課題)

- ・ 交通の便が悪い
 - 宮前～波瀬まで全長 30km。コミュニティバスはあるが、本数が少ない。
 - しかし、本数を増やしても乗る人が増えるかは不明であると、住民自身も理解している。
- ・ 商売人が少ない＝地域の魅力の PR 不足
 - 商売人は一般的に広報上手である。例えば、勢和の金川珈琲はネットを活用し、他府県からも多くの客が来ている。そのような発信上手な商売人が根付くような町の仕組みにしていきたい。
- ・ 住民自治協議会など地域活動メンバー内においての人材不足
 - 地域の元気応援事業は採択されたが、資料作成は地域おこし協力隊の高杉さんに手伝ってもらった。PC を詳しく扱える人材に乏しいと考える。
- ・ 飯高道の駅で目玉商品となる物を発売したいが、何を売れば良いと思うか教えて欲しい
 - ※住民からの付け加え
 - 「最近、珍布峠土産を発売した。開発に1年 3 ヶ月を要し、生地にこだわった。多くの人に手に取って欲しい」
- ・ 飯高地域の山は登山届の箱が少ない
 - 現在、作成中である。ポストが設置されている場所もあるが、雨で濡れたり知られていなかったりと、改善の余地がある。登山届を出す事を、飯高の地でもしっかり定着させたい
- ・ 山岳会ガイドの高齢化
 - 人数も少なくなり、高齢化となってきた

Q. 3【将来の飯高像】

- ・ 都市部の方の心の憩いの場となる飯高になってほしい。登山上級者だけでなく、小さな子どもがいる家族連れや、登山が目的でない人達も、ふと日常の喧騒を忘れ、「おばあちゃんの家遊びに行くような」そんな想いで来てもらえる地になってほしい
- ・ おいしい食堂があればと思う。地域住民も地域外の方も利用するような、毎日立ち寄りたくなる名物食堂ができて欲しい
- ・ 山ガイドの育成と PR が活発になって欲しい
- ・ 地産地消の食事ができたり、庭先で BBQ ができるような民泊の施設ができて欲しい。住むように旅する形で、飯高の空気感を味わってほしい。

議会報告会の様子

